

総合的な学習の時間

「つくろう！ 安心な町 桂」

仙台市立桂小学校研究同人

I はじめに

本校では、震災時に学校を避難所として開設し、地域（連合町内会）と共同して震災を乗り越えた経験がある。また、学校支援地域本部が開設したこと、地域の方が集う場所として地域交流室が校内に設けられたことから、年々学校と地域との連携の機運の高まりが感じられる。

この背景を受け、平成24年度から生活科・総合的な学習の時間のカリキュラムの見直しを図り、「人・地域に主体的に関わることを通して、自分の思いや考えを伝え合う楽しさを味わい、自らの課題を見つけて創造的に探究し、自分の生き方を考え、伝えようとする子供を育てる」ことを目標に定め、地域を学習材とした教材開発に取り組んできた。

平成24年度は、第6学年の学習課題を『防災』に定め、安心な町づくりに取り組んだ。

地域との関わりを深めることや災害時に地域活動に参加することを学習課題とすることで、地域社会に生きる一員として、何をすべきか、どのようにすべきかなど自らの生活や行動を考える機会としたいと考えた。

地域での活動を考える過程においては、自分がやりたいこと、できること、地域の願いとに「ずれ」や「隔たり」を生じることが予想された。そこで、地域の願いや意見を聞く場を設け、常に地域の方と考えを共有しながら学習を進めていくことで、地域の一員として自分たちの役割を認識させ、地域と共に歩んでいく態度を身に付けさせたいと考えた。

平成24年度の具体的な取組としては、児童は自己課題を設定し、「災害時の水の運び方」「安全避難マップの作成」「外国人への災害状況の伝え方」「避難所における子供の預かり」「避難者への癒やしの実践」等に取り組んだ。

児童が考えた取組を地域に発信することによって地域とつながりを持つこと（民生委員さんと一緒にお年寄りへのマップを配るなど）、地域の方と共に地域について考えていくことが増えた。

しかし、第6学年の学習では災害時の取組を考えたもののすぐに卒業を迎え、学習の継続や具体的な活動に結びつかないとの課題が挙げられた。

そこで、平成25年度は、『防災』を第5学年の学習課題とし、学習したことを生かして6年時には、学校の防災リーダーとして活躍してほしいと考えた。



II 実践内容

1 単元目標

「安心な町 桂」にするために、地域との関わりを深めることを通して、自分たちにできる活動を考え、地域の一員として実践しようとする。

2 指導計画

第1次「安心な町 桂」を自分たちでつくるためにみんなの願いを知ろう

- ・災害時の安心な町について話し合い、自分たちの目指す「安心な町 桂」について共通理解する。（2時間）
- ・震災時の様子を知るために保護者や住民から情報を収集する。（4時間）
- ・収集した情報を整理・分析し、地域の方の思いを考える。（4時間）
- ・整理・分析した資料から自分たちができることを考える。（2時間）
- ・地域の方に、自分たちの考えを正確に伝えるための準備をする。（1時間）
- ・「安心な町 桂」について自分たちの考えを伝え、地域の方の意見を聞くことで、地域の願いや思いを理解する。（2時間）

第2次「安心な町 桂」を自分たちでつくる

- ・「安心な町 桂」のための地域の願いを生かした課題（活動）を考える。（4時間）
- ・自分たちの課題を解決するために、必要な情報を収集する。（4時間）
- ・収集した情報を整理・分析し、自分たちができることを具体的に考える。（4時間）
- ・「安心な町 桂」について自分たちが取り組むことを計画する。（5時間）
- ・自分たちが考えた活動を実践する。（6時間）
- ・「安心な町 桂」について情報を発信し、地域との関わりを深める。（5時間）



3 授業実践

第1次の1時間目には、自分たちが目指す「安心な町 桂」とはどんな町なのかを話し合った。その結果、今年の5年生が目指す「安心な町 桂」は『日頃から地域との関わりが深い町』『災害に強い町』であると共通理解を図ることができた。

そこで、災害時の桂の様子や地域の人考える『日頃から地域との関わりが深い町』『災害に強い町』を知るために、アンケート調査を行った。アンケート調査は、5年生児童が各家庭に持ち帰り保護者に記入してもらったもの、近所の方に手渡しで協力をお願いしたもの、協力依頼文書を付けてポスティング（自宅マンション）したものがあった。合計約200枚を回収することができた。さらに、学校公開の日に来校した保護者や地域の方へ直接インタビューすることで情報を集めた。

集めた情報は、グループ数分複写し、グループ毎に整理・分析を行った。その際には、意見が多い少ないだけに注目するのではなく、『日頃から地域との関わりが深い町』『災害に強い町』にするために地域の方はどんな願いを持っているのかを読み取ることを重視した。



その上で、自分たちが『日頃から地域との関わりが深い町』『災害に強い町』を実現するために地域に提案できる活動は何かを考え、第1の課題とした。第1の課題決定は学級毎に行った。各グループの整理・分析の結果から出された提案を、学級で「地域の願いに合っているか」「自分たちで実行できるのか」の2つの視点で吟味し、学級全体での提案課題として精選した。更にその中から、自分が取り組んでみたい提案課題を選び担当者を決定した。その後、担当課題について具体的な計画を立てた。

第1次のまとめでは、地域の方に自分たちの「安心な町 桂」についての思いと提案する活動について発表をし、「地域の願いに合っているか」「自分たちで実行できるのか」について直接アドバイスをいただいた。

児童が考えた第1の課題は、以下のものであった。

《日頃から地域との関わりが深い町》

○笑顔であいさつ運動

地域にあいさつスポットを作る。

あいさつデーを作り、登下校中や休み時間にあいさつ運動をする。

ポスターや回覧板でお知らせする。

○安心マップ交流会

安心マップを作り、老人ホームに行つて安心マップを説明し、交流をする。

○イベント・行事お知らせ隊

桂のイベントや行事をまとめた一覧表を作り各家庭に配布する。

イベントや行事の前にもう一度声掛けして参加を促す。

イベントや行事に参加し、取材したり、参加をしている人にインタビューをしたりして行事の様子を伝える新聞を発行する。



《災害に強い町》

○災害は時を選ばない！～防災マニュアル～
時間帯や季節によつての備えの違いを調べ、パンフレットにまとめて地域に配布する。

○安心マップ作り～危険箇所・備え～
桂地区の公共施設の備蓄について調べてまとめる。
桂地区の危険箇所を調べてまとめる。

○水汲みプロジェクト

災害時にプールの水が効率よく運べるように、水運び体験を実施し、見つけた良い方法を地域に知らせる。

地域の方からは、町内会でも話題になったが、実際に実施することができなかった事が提案されて嬉しい。是非お願いしたい。今まで考えつかなかった事が提案された。大人も一緒に取り組んでみたい。という意見をいただいた。また、大人を動かすこと（あいさつなど）は難しいが、子供がやることで広がってほしい。回覧板など大人が協力できることは、引き受けます。更に回覧板に載せたい時には、地域交流室に行く印刷部数が分かる、など具体的な活動につながるアドバイスをいただくことができた。

第2次は、2学期これからの取組になる。2学期は第1次のまとめ、地域の方から得た意見やアドバイスを基に活動内容をより具体的に練り直し、実践につなげていく。第2次でも、校内に設けられている地域交流室にいる地域の方の意見を聞きながら進めていくことになる。

Ⅲ まとめ

1年半の取組ではあるが、児童は自分たちを地域の一員と自覚し、自分たちにも地域のためにできることがあると知ることができた。このことによつて、自信を深めている様子が感じられた。また、地域の方も子供たちと一緒に地域について考えていくことを喜んでくれた。

今後も地域と共に歩む学校を目指して、継続して地域との関わりを深める活動に取り組んでいきたいと思う。